



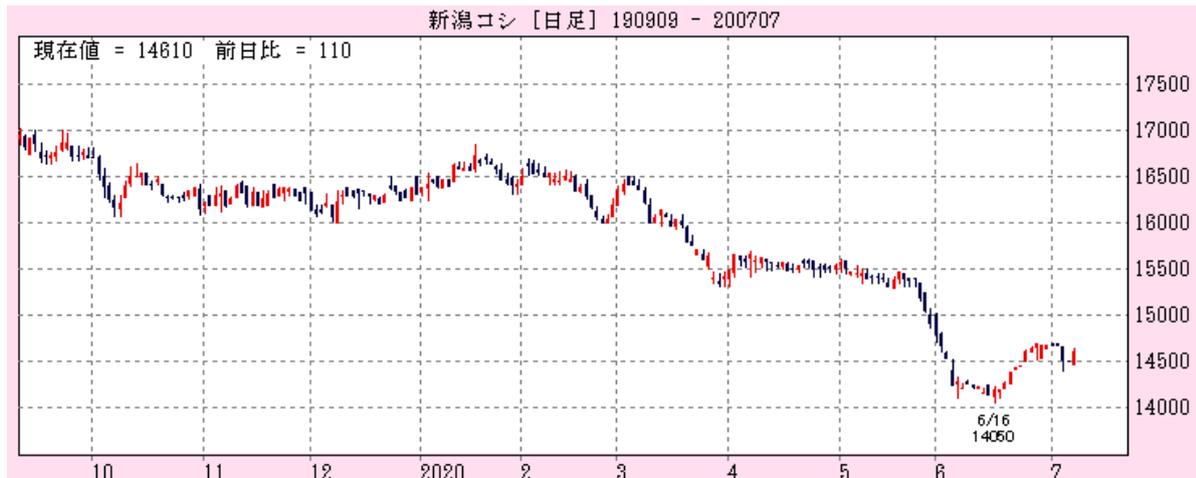
月2回のお米



コメ市場に関する情報がここに凝縮されています。
毎月第2・第4木曜日 夕方発行

新潟コシヒカリ

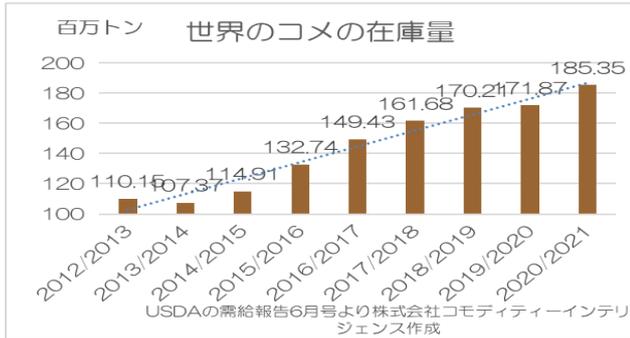
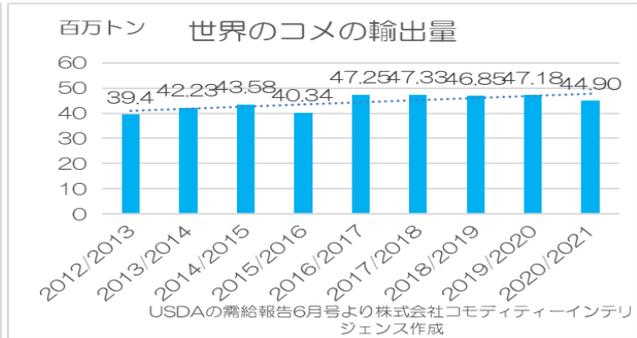
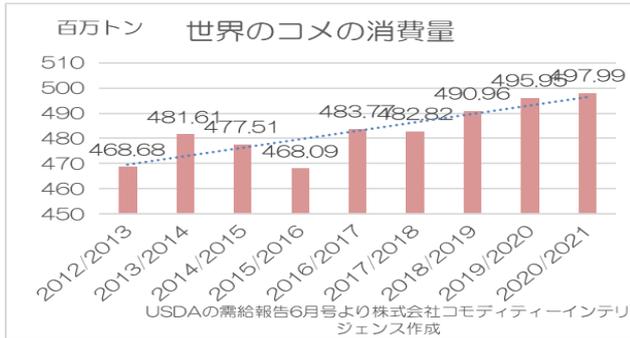
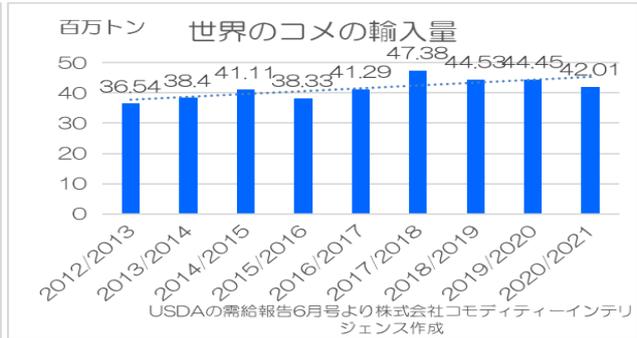
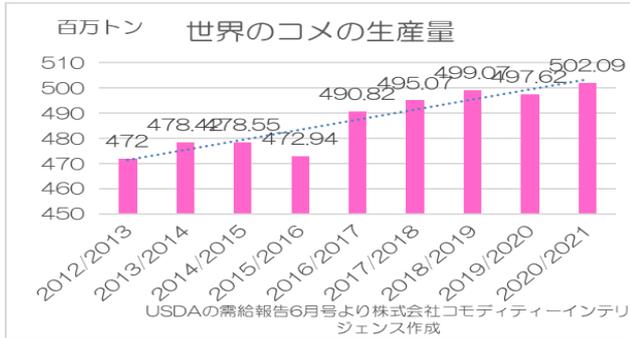
発行日 : 2020/7/8



TOPICS 世界のコメの需給 by USDA

米国USDAの需給予測6月号によれば、2020/21年の世界のコメの生産量は初めて5億トンを上回り、5億209万トンになった。前年比+447万トン増、+0.9%増である。コメの消費量は、4億9,799万トンで、前年意+204万トン増、+0.4%増である。生産量から消費量を引いた需給バランスは+410万トンの生産過剰となっているが、2013/14年度を除いて。これまでほとんど年が生産の方が多かった。期末在庫は1億8,535万トンで、消費量の37.2%と潤沢にある。前年よりは+1,348万トン、+7.8%増加している。

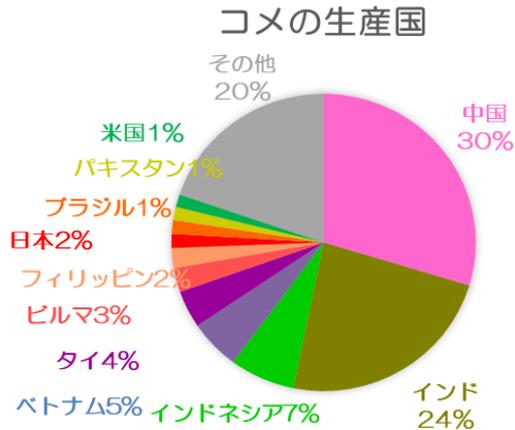
世界のコメ需給 by USDA								
百万トン	期初在庫	生産	輸入	消費	輸出	期末在庫	在庫率	生産量マイナス消費量
2012/2013	106.83	472	36.54	468.68	39.4	110.15	23.5%	+3.32
2013/2014	110.56	478.42	38.4	481.61	42.23	107.37	22.3%	▲3.19
2014/2015	113.87	478.55	41.11	477.51	43.58	114.91	24.1%	+1.04
2015/2016	127.89	472.94	38.33	468.09	40.34	132.74	28.4%	+4.85
2016/2017	142.37	490.82	41.29	483.77	47.25	149.43	30.9%	+7.05
2017/2018	149.43	495.07	47.38	482.82	47.33	161.68	33.5%	+12.25
2018/2019	162.09	499.07	44.53	490.96	46.85	170.21	34.7%	+8.11
2019/2020	170.21	497.62	44.45	495.95	47.18	171.87	34.7%	+1.67
2020/2021	181.26	502.09	42.01	497.99	44.9	185.35	37.2%	+4.10
前年比	+11.05	+4.47	▲2.44	+2.04	▲2.28	+13.48	+2.6%	+2.43
前年比%	+6.5%	+0.9%	▲5.5%	+0.4%	▲4.8%	+7.8%	+7.4%	



コメの生産量も消費量も右肩上がりて増加している。一方コメの貿易量は、輸入も輸出も20/21年度は減少している。
コメの在庫量は増加している。

TOPICS 世界のコメの需給 by USDA

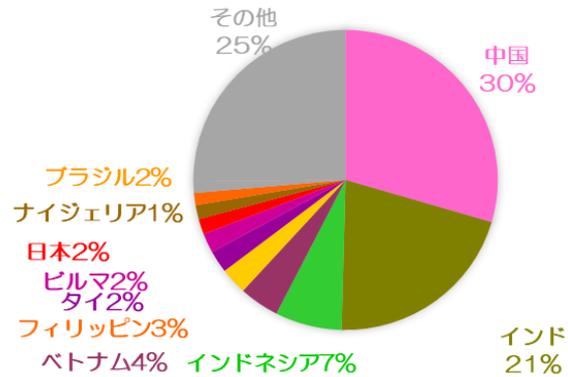
コメの生産		
世界	502.09	シェア
中国	149.00	29.7%
インド	118.00	23.5%
インドネシア	34.90	7.0%
ベトナム	27.20	5.4%
タイ	20.40	4.1%
ビルマ	13.10	2.6%
フィリピン	11.00	2.2%
日本	7.65	1.5%
パキスタン	7.50	1.5%
ブラジル	7.21	1.4%
米国	6.86	1.4%
ナイジェリア	5.04	1.0%
エジプト	4.30	0.9%
韓国	3.74	0.7%
中近東	2.33	0.5%
欧州	1.97	0.4%
中央アメリカ	1.58	0.3%
メキシコ	0.19	0.0%



コメの生産国は中国が一位で30%、次いでインドの24%、インドネシア、ベトナム、タイ、ビルマ、フィリピンと続いて、日本は第8位である。

コメの消費		
		シェア
世界	497.99	
中国	147.10	29.5%
インド	104.00	20.9%
インドネシア	35.30	7.1%
ベトナム	21.20	4.3%
フィリッピン	14.30	2.9%
タイ	11.80	2.4%
ビルマ	10.60	2.1%
日本	8.25	1.7%
ブラジル	7.45	1.5%
ナイジェリア	6.60	1.3%
中近東	6.00	1.2%
エジプト	4.50	0.9%
米国	4.43	0.9%
欧州	4.00	0.8%
韓国	4.00	0.8%
中央アメリカ	3.45	0.7%
パキスタン	3.10	0.6%
メキシコ	0.95	0.2%

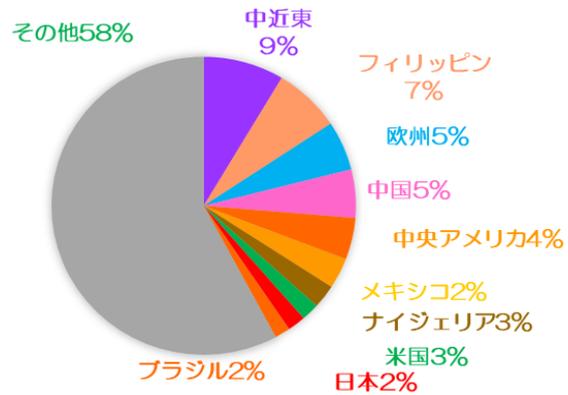
中近東1% コメの消費国



コメの消費国は、中国が最大で3割、インドが21%の二位、インドネシア、ベトナム、フィリッピン、タイ、ビルマと東

コメの輸入		
		シェア
世界	42.01	
中近東	3.60	8.6%
フィリッピン	3.00	7.1%
欧州	2.25	5.4%
中国	2.20	5.2%
中央アメリカ	1.90	4.5%
ナイジェリア	1.40	3.3%
米国	1.07	2.5%
ブラジル	0.80	1.9%
メキシコ	0.80	1.9%
日本	0.69	1.6%
インドネシア	0.50	1.2%
韓国	0.41	1.0%
ベトナム	0.40	1.0%
タイ	0.20	0.5%
エジプト	0.20	0.5%

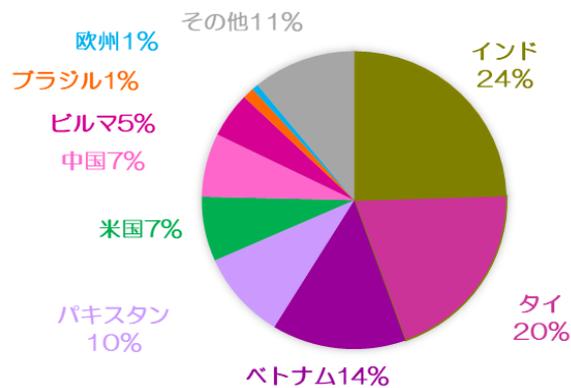
コメの輸入国



コメの輸入国は多くの地域に分かれており、中近東が一位で9%、次いでフィリピンの7%、欧州、中国、中央アジア、メキシコ、ナイジェリアと続き、日本はミニマムアクセス米であるがそれでも10位となっている。

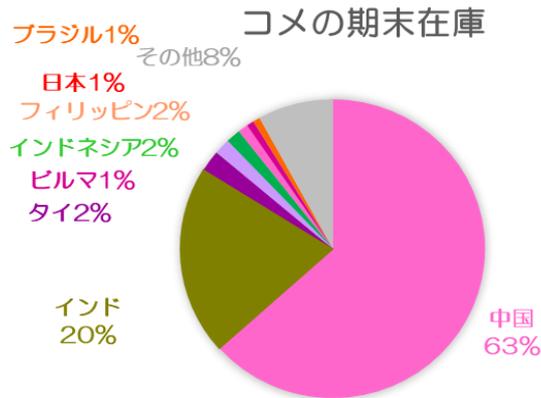
コメの輸出		
		シェア
世界	44.90	
インド	11.00	24.5%
タイ	9.00	81.8%
ベトナム	6.40	71.1%
パキスタン	4.30	67.2%
米国	3.14	73.0%
中国	3.10	98.7%
ビルマ	2.20	71.0%
ブラジル	0.55	25.0%
欧州	0.30	54.5%
日本	0.08	26.7%
韓国	0.06	75.0%
中央アメリカ	0.03	50.0%
エジプト	0.02	66.7%
メキシコ	0.01	50.0%

コメの輸出国



コメの輸出国は、インドが最大で24%、タイ、ベトナム、パキスタン、米国、中国、ビルマ等が主要輸出国である。

コメの期末在庫		
	185.35	シェア
世界		63.4%
中国	117.50	20.5%
インド	38.00	2.3%
タイ	4.19	1.7%
インドネシア	3.16	1.5%
フィリピン	2.87	1.1%
日本	1.98	0.8%
ビルマ	1.44	0.7%
米国	1.38	0.7%
韓国	1.33	0.6%
エジプト	1.11	0.6%
欧州	1.08	0.5%
ベトナム	0.97	0.4%
パキスタン	0.83	0.4%
中近東	0.78	0.3%
中央アメリカ	0.64	0.3%
ナイジェリア	0.60	0.2%
ブラジル	0.37	0.1%
メキシコ	0.19	



TOPICs コメの輸入国としてはフィリピンが第一位

JETROによれば、フィリピン政府は2019年3月に、コメの輸入数量制限を撤廃した改正農業関税法を施行。植物検疫証明書とフィリピン農業省（DA）が発行する植物検疫輸入クリアランス（SPS-IC）を取得の上、35%の関税を支払えば、自由にコメを輸入できるようになった。フィリピン統計庁（PSA）によると、国内のコメ需要を満たすには年間190万トンの輸入量で済むが、コメが限定的ながらも自由に輸入できるようになったことで、2019年はその約1.6倍の量を輸入する試算となる。また、フィリピンのコメ需要量は1日当たり3万2,000トンで、現時点で国内に71日分のコメの在庫を保有しているとした。このような過剰な供給、輸入の加速によって、10月時点のコメの小売価格は、前年同月比18.6%減の1キログラム当たり41.89ペソ（約92円、1ペソ＝約2.2円）に下落している。PSAによると、2019年1～8月のコメ（HSコード：1006類）の輸入量は233万トン、うち70%に当たる163万トンをベトナム、14%に当たる32万トンをタイから輸入している。USDAは、国内生産量の上昇と過剰供給の影響から、2020年のコメ輸入量は減少すると予測している。

TOPICs サバクトビバッタの被害拡大

国連食糧農業機関（FAO）によると、大量発生しているのはバッタの中でも移動や繁殖が早く、特に大きな被害をもたらす「サバクトビバッタ」という種類。成虫は1日に最長150kmの距離を飛び、その間に2g前後の体重と同じ量の野菜などを食べるという。その群れは1km～数km四方の規模になり、1km四方の成虫の数は8000万匹にも達する。

このバッタ禍は新型コロナウイルス同様「第2波」の懸念も。今年の夏に発生するとみられる第2波は、第1波の20倍もの被害を生むと想定され、1兆9000億匹の規模になると国連は推定している。

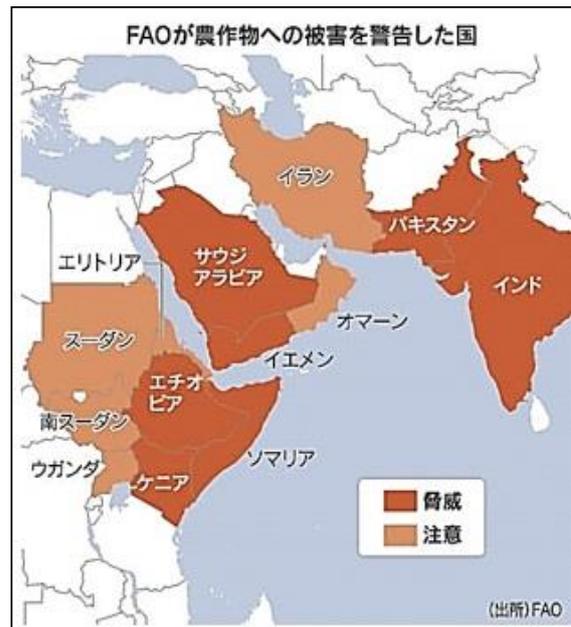
一方、バッタが大量発生している原因について、『ニューズウィーク日本版』最新号の記事は、気候変動の影響で野生動物の生息圏が狭まっていることなどが考えられるとしている。バッタの群れは、日本に例えると目黒区や渋谷区に匹敵する大きさ。この先、バッタによる食糧難が引き起こされると、地政学的な問題も出てくる可能性があるとの指摘もある。（つづく）



世界銀行は5月下旬、過去70年間で最大規模のバッタの襲来による深刻な被害が発生しているとして、ジブチ、エチオピア、ケニアなど東アフリカ諸国に対して総額1億6000万ドルを支援すると発表。既に東アフリカ地域では2300万人が食糧難に直面しているとも言われる。サバクトビバッタは、パキスタンやイラン南部、イエメン、ソマリア、ケニアなどで繁殖し、それらが周辺諸国に襲来する形で被害が拡大している。現在、インドの首都ニューデリー近郊ではバッタの大群が襲来し、農作物や人々の日常生活に大きな被害を与えている。インド政府は殺虫剤をフルに使うなどしてバッタの駆除を行っているが、なにせ数が数だけに効果は十分に現れていないという。

国連食糧農業機関（FAO）によると、今回のバッタの襲来によって農作物の8割が食い荒らされる恐れもあり、大きな食糧問題に発展する恐れがあると警戒している。

FAOは以前、人類は虫を主食にするべきだろうとする報告書を出したことがあったが、フィンランドなどでは昆虫パン、虫の唐揚げなどが当たり前前に販売され、栄養素が高いことから好んで食べる市民も増えているという。



今後の見通し

大阪堂島商品取引所の新潟コシヒカリの価格は、1月21日の16,860円を天井に6月16日の14,060円まで▲2,800円、▲16.6%下落している。新型コロナウイルスの影響で消費が減ると言う見方からであるが、外食用のコメ需要は減っても、在宅勤務が増えると家庭用のコメの消費量はむしろ増えるのではないかとと思われる。また直近の九州地区等における洪水の被害でどれだけ田畑の収穫に影響があるかが注目される。いずれにせよ安値からは少し回復してくるのではなかろうか。

掲載される情報は株式会社コモディティー インテリジェンス（以下「COMMI」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMIが作成・表示したのですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMIは保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的財産権はCOMMIに帰属し、事前にCOMMIへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

COMMIが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMIは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMIおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

発行元：